



## みぬまニュース

### 第39回 自然観察ハイキング 『見沼の自然と史跡を訪ねて』 9月26日(日)

観察コースは見沼自然公園から万年寺、ヒガンバナ群生地などを經由して見沼自然公園に戻るものである。観察の目玉は、稲刈りの始まった水田風景、満開のヒガンバナや野草の花々、実のなる樹々を楽しむことである。この時期、花の咲く野草は100種を超え、実のなる樹は40種もある。万年寺でカラタネオガタマの赤い実を見る。加田屋新田では、刈り稲を天日干しする稲架や稲ボッチを見学する。東縁右岸に咲く満開のヒガンバナは、この地域にマッチして素晴らしい景観であった。その傍を歩くときは将にシャッターチャンスとなった。(若野忠男)

### 「見沼ふれあい農園づくり」 楽しかった! 秋野菜の収穫 11月29日(日)

9月12日の種蒔きから除草や間引きの作業5回を経て、収穫を迎えた。老若男女40名ほどが集まった。聖護院大根・大蕪小蕪・人参・春菊・小松菜・青梗菜と多彩な秋野菜の大収穫です。無農薬で、肥料の主役は鶏糞。生でもほんのりした甘みがあって実に美味しかった。厚澤副会長の指導で、地元農家の方の荒地開墾から畝作りのお陰で、らくらく農作業で農園づくりを楽しむことが出来ました。深謝、深謝。(事務局)

### 第73回 見沼塾 『和風づくり』 12月13日(日)

子ども8名・大人10名・指導者2名と民家園ボランティア等総勢23名で昔ながらの竹骨4本組みの角型の和風を作りました。小刀(ナイフ)を小学生が使うのはやや難しいようで、父母の手助けが必要でした。このほか「糸を張る」「糸目をつける」など手先の作業でも子ども達は大いに苦戦したようです。

当日は適度な北西の風が吹き、凧あげには良い日となりました。



渋うちわの面作り

広場でテスト飛行を行い、尻尾の長さや糸目を調節してバランスをより良くすること、凧に絵を描いたり字を書くことは家で作業にすることによって講座は終了しました。年末から正月にかけて、自作の凧があがっていたら、それは「見沼塾」で作った凧かもしれませんね。(浦和くらしの博物館民家園)

### 見沼たんぼ斜面林の体験学習『大和田緑地公園』 森と谷地の見学&落ち葉かき 12月13日(日)

8時50分に大宮体育館正門に集合した時は、寒いのためか、参加者は僅か18名。森に入ると、風は無く、気温も上がっていた。誰かが「空気が美味しいね」「落ち葉の道がサクサクして気持ちがいい」と声を張り上げた。高木を皆抜して、ドングリから育てた苗を植樹した若い雑木林に始まって、樹齢60年ほどのコナラとクヌギを主体とする雑木林、復元した谷地の沼沢を見学した。熊手を使った落ち葉かきで爽やかな汗をかいた。みんな本当によく動いた。おかげで、来春はカラフルな花を咲かせる山野草がどっさり見られそうだ。(さいたま市みどり愛護会)



落ち葉かき

### 見沼たんぼの四季 『大根の行列』

木々の葉も落ちて、畑や田んぼも静かです。でも、よく見ると裸の木々の枝先には春のための小さな芽が、もうちゃんと準備されています。梢にとまった野鳥の姿も見えやすくなっています。芝川には冬鳥の姿も多くみられます。農家の庭先に、漬物用の大根の行列を見ることもあります。冬には冬の楽しみ! 寒さはまだまだ続きますが、確実に延びてきた日脚に誘われて出かけてみませんか。(高橋)



漬物用の大根

# 見沼たんぼ探訪記

見沼たんぼには、四季折々の美しさを感じられる自然や、文化や歴史により育まれた風景など、魅力的なたくさんの見所があります。ここでは、そんな見沼たんぼの見所を紹介します。

## 50年ぶりの「フナノ」

県道・さいたま鳩ヶ谷線の上野田交差点を過ぎ、およそ1500m北に進むと右側に直売所の看板を見る。11月に入って直ぐの頃、丁度、この西側の田んぼの中に、藁で造られ船の形をした大きな「フナノ」を見る。

今時珍しい「わら塚」で、この辺りのあちこちの農家や田んぼでは昭和30年(1955)代の初めの頃まで収穫期を終えると見られたと言い、この土地における風物詩にもなっていたそうである。昔、このようなわら塚は全国各地に見られたが、地方によって呼び方や形が様々であったという。

フナノは稲を刈り取り脱穀した後の藁を積み上げ、その頭部を屋根の形に整えたもので、あたかも船の様に見える。当時の人たちは、こう



わら塚「フナノ」

して積み上げた藁を、「かまど」に入れて煮炊きの燃料、畳、籠、草履、ムシロ等の生活用品に、また、肥料や牛馬の飼料に利用し、米だけではなく、副産物としての藁までを利用してきており、稲作文化が深く沁み渡っていたことを教えられる。

時代の流れとともに燃料、生活用品等、藁を使用するよりも低価格の物が出回り、また、耕運機の出現により牛馬の姿も見られなくなって、さらにはフナノを造る際の労働力が、農業の高齢化の中で得られなくなり、このフナノの姿が見られなくなってしまったのである。

今、目にしてフナノに近付き手に触れてみると、藁で造ってあるので一見柔らかそうに見えたのだが、驚いたことに、強固に締め固められて造られているのではない。作製の過程で一つ一つの藁を締めつけながら積み重ねていった事もあるが、フナノ自体の重量が10トン近くもあるというので、その重みで強固になっているのであろう。これほど頑丈に出来ていれば、強い台風のような風に吹かれても吹き飛ばされてしまう事はまずないであろう。

このフナノは、昨年引き続き10月21日と22日の両日、「NPO法人見沼ファーム21(島田由美子理事長)」と地元の方々が協力して造られたもので、おおよその大きさは縦5.5m、横2.8m、高さ2.5mという事であった。(召田紀雄)

## 第1回 見沼たんぼふれあいウォーキング

12月5日、今にも雨が降り出しそうな中で、「第一回見沼たんぼふれあいウォーキング」を行いました。83名の申し込みがありました。今回の主旨は、見沼の自然を見ていただきながら、定められたチェックポイントを探してもらい、いくつもの問題にもチャレンジしていただくといった、盛りだくさんの体験です。

今はまさにウォーキングブームの延長上にありますが、自然を眺め、会話を楽しみ、新しい友人を作りながらのウォーキングを理解していただく必要があります。会話をしながら有酸素運動ができるものとしては、ウォーキングに勝るものはありません。

スタートの1時間前から続々と参加者が集まってきました。ご夫妻での参加も何組かあります。80歳を越された方もいらっしゃいました。雨の降りだしが懸念されるため、予定を10分間早めて開会式を行い、10人ずつのグループごとにスタートをしてもらいました。

それぞれが思い思いに歩かれています。途中でカメラを動かしている人、色付いた落ち葉をポケットに入れている人、産地直売所で野菜や切花をたくさん



チェックポイントに向かって歩く

買って来た人もありました。最も微笑ましかったのは、母娘のカップルでした。おそらく娘さんがお母さんを気遣って一緒に参加されたのだと思います。余程話がはずんでいたと見え、参加者が全て帰ってしまった頃ようやくゴールしました。

私たちの役割は舞台の設定をするだけです。舞台上で演じるのはご参加の皆さんです。たくさんの方に主役を演じていただき、素晴らしい一日となりました。第一回目としては上出来であったと自負しています。

皆様からは、「新しい友人が出来た」「知らない場所を紹介していただいた」「今度は自分達で歩きます」、などのコメントをいただきました。このようなコメントは貴重なご意見として今後につなげていくつもりです。今後とも「見沼たんぼクラブ」をよろしく願います。今回コース：土呂駅⇒土呂神明社⇒土呂中学校⇒八雲神社⇒鷺山橋鷺神社⇒見沼グリーンセンター⇒土呂駅(佐々木明男)

## 見沼たんぼの植物

### — 冬の野草の花々 —

12月5日(日)は晴天に恵まれた温かい日、さいたま市大宮区の合併記念見沼公園の南側の休耕田、芝川の土手、その東側の田圃を観察する機会があった。落葉樹の並木の多くは葉を散らせて、休耕田などでのアシ、オオブタクサ、ガマ、セイダカアワダチソウの多くが立ち枯れており、冬の風情を漂わせているが、地表面を見ると、白、黄色などの花を付けた野草が多く見受けられた。その数は30種を上回るほどであった。

これら開花中の野草を大別すると、①夏・秋に咲く種で、花期を延ばしている種(セイヨウタンポポ、トキワハゼ、ノゲシ、ハキダメギク、ハナイバナ、ヒメジョオンなど)。②夏・秋の花期前に刈り取られた後、再萌芽し花を咲かせている種(セイタカアワダチソウ、セイバンモロコシなど)。③越年生種などのように本来春に花を咲かせる種であるが、天候などの関係により年内に花を咲かせた種(タネツケバナ、ナズナ、ノミノフスマなど)になろう。殆どの越年生の野草にはこの時期に良く見られる霜や寒風による葉の枯れは見当たらない。田んぼに生えてい

る穂(ひつじ:刈り取られた後再生する穂)もまだ枯れてはいない。本年これらの地区ではまだ霜も降りておらず、気温の水準もある程度高いこともあり、上記の種全体に影響を及ぼしていると考えられる。根生葉(茎の節間が極端に短く、葉が外見上地下茎から直接出ているように見え



タネツケバナ

る)を掘げ、冬の陽を一杯受け、また地表にへばりついた葉を強い北風の影響を極力避けるようになっており、太陽エネルギーを受けて得た養分を根に貯めて春に備えようとするロゼット植物達(今はまだ花を付けていないオオバコ、キュウリグサ、ハルジオン、メマツヨイグサなど)も順調に成長している。

なお、春の七草のうち、コオニタビラコ(ホトケノザ)、カブ(スズナ)以外は見る事ができた。ナズナ、ハハコグサ(ゴギョウ)、ハコベには花が咲いていた。これらの状況は以前からしばしば見られたことであるが、現在進行している地球温暖化が越年生の野草の生育に大きく影響しているものと思わざるをえない。

(NPO法人自然観察さいたまフレンド 若野忠男)

## 見沼たんぼの動物

### — カモの常連は10種 —

見沼たんぼに飛来するカモ科の常連は10種です。と言っても、一年中当地に生息する留鳥はカルガモ1種だけです。あとの9種はシベリヤ方面から晩秋に飛来し春には北に帰る冬鳥で、オカヨシガモ・オナガカモ・キンクロハジロ・コガモ・ハシビロガモ・ヒドリガモ・ホシハジロ・マガモ・ヨシガモです。この他、稀にはアカハジロ・オシドリ・ミコアイサも飛来したことがあります。

### カモのライフスタイルには二つのタイプ

行政のとある広報誌に、私の名を騙って、「芝川にカルガモが多いのは、餌となる魚がいるからだ。」という記事が掲載されました。カルガモはじめ淡水ガモの仲間は草食動物ですから魚を口にする事は通常はありません。その編集者の思い込みで、このような記事が権威付けのためにナチュラルリストの談話として無断で出されたのです。しかし、私たちの自然観察会の中で、野鳥や植物の名前合わせだけに終り、ライフスタイルにまで踏み込んだ観察に欠けていることから生じた出来事とも考えられます。

### 淡水ガモ(水面取餌)

オカヨシガモ・オナガカモ・カルガモ・コガモ・ハシビロガモ・ヒドリガモ・ホシハジロ・マガモ・ヨシガモです。エサの取り方は、水面で嘴を動かして流れてくる草を食べたり、逆立ちになって水底の水草を食べます。また草地に上がって草の葉や実を食べます。飛び方は、垂直に飛び立ちます。

### 海水ガモ(潜水)

キンクロハジロ・ホシハジロ。エサの取り方は、水中に潜って水底の水草や小さな水生動物を食べます。飛び方は、水面を滑走して飛び立ちます。

(NPO法人自然観察さいたまフレンド 小野達二)



# 新釈見沼民話 見沼の竜の語り草

宮田正治

## 下山口新田の弁天社ものがたり（後編）

それからというもの、不思議なことに、運送屋としての仕事があぐんぐん増え始めた。荷車や馬の数を増やし、店を広げ、倉庫も建てた。二年もすると、車も馬も雇い人の数も、それぞれ三倍にもなっていた。

お金も貯まってきた。木曾呂の村はもとより、見沼の村々の評判は高まり、『木曾呂の車屋』を知らない者はないほど有名になった。

旦那は得意になっていた。大金持ち、有名人、大商人……もう、思い通りにならないものはないという感じになった。

一有難いことだ。これも、あの中着のおかげかな？ それにしても、あれをくれた娘というのは、どこの、誰だったんだろう？

旦那はじつと神棚の小袋を見つめた。金糸銀糸の織り込まれたそれは、わずかな光にもちかちか輝いている。一あんな立派な中着をくれるなんて、普通の人じゃないな。それに、『絶対に中を見るな』というのはおかしい。見てはいけない、さわってはいけないというのだったら、くれた意味はないではないか？ 怪しい袋だな。いつたい、中味は何なのだ？

旦那は立ち上がって、神棚の中着を下ろした。

一どうしようか？開けてみようか？止めておこうか？

旦那は迷った。

一いい香りだ！ 軽い！ 軽すぎる！ 中味がいないのかな？

旦那は触ってみた。

一何かある！ 木の葉か？ 固い紙切れか？

旦那は開けて見たかった。どうしようか、迷った。

さあ、みんなはどうする？ 開けるか？ 止めるか？」

こう問いかけて、辰五郎爺さんは子供たちを見回した。わいわい、がやがや、大騒ぎとなった。しばらく言わせておいて、爺さんはまた話し出した。

「旦那はがまんができなくなった。ちよつとのぞくだけならいいだろうと思った。そしてそうっと開けてみた。中には小判のようなものが一枚入っていた。ほかには何もなかった。

「なーんじゃ、こりゃあ？」

旦那には分からなかった。小判のような、貝殻のような、変わった葉っぱのような、不思議な物だった。でも、それは竜の鱗だったのだ！

旦那はがっかりして巾着の紐をしめ、神棚に戻してまわりを見回した。

一誰にも見つからなくてよかった。太平が知ったら、うんと怒るだろうからな。

そう思って胸を撫で下ろしたが、しかし、それでは済まされなかった。約束を破った罰か、次の日から、車屋では止めておいた荷車が急に動き出したり、馬が病気で倒れたりし始めた。雨の日が多くなり、荷物を頼みに来る人が激減した。

見沼では、急に沼が荒れ始めた。船が転覆したり、岸辺の土手が崩れて、田畑が水浸しになった。村中が暗い、沈んだ空気に閉ざされた。

やがて、誰からともなく声が上がった。

「これは見沼の主の怒りだんべ。早く怒りを鎮めて貰わんと、村は滅亡じゃ」

「そうするにや、どうしたらいいだんべな」

「まずは弁天様を祀るのが一番だんべ」

「そうだ、そうだ。弁天様を祀るべ」

こうして決まった。そして、弁天様にもいろいろあるのでまた相談し、巖島神社の弁天様と決まった。おやしを建てて盛大なお祭りをし、お怒りを鎮めてくださいとお願したところ、間もなく見沼は元のような静かな沼になったということ。めでたしめでたし」

こうして、高木辰五郎老人の昔話は終わった。どうじゃったかな？

ところで、少し固い話になるが、弁天社について述べておこうかのう。

そもそも弁天社というものは川・池・沼のあるところにはほとんど祀られている神社であり、水の神なのじゃ。その上、弁財天ともいわれるごとく、弁舌・技芸・財宝の神でもあるとされている。また、七福神の中にも入っており、福德をもたらす神でもあるな。

もう少し話したいが、長くなるので、今日はここまでとしよう。

おわり

（前編から続く。見沼文化の会発行「竜のひげ」第3号から転載）

# 見沼たんぼ 水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎

## 「見沼たんぼ・富士 遠望」

新見沼大橋有料道路近くの東斜面から見沼たんぼを俯瞰したもの。風強く寒さ厳しい日であったが、空が澄み渡って富士の秀峰を間近に仰ぐことができた。

手前桑畑の先に芝川が流れる。その水質改善のため、赤羽の「綾瀬川・芝川等浄化導水機場」で荒川の比較的きれいな水をくみ上げ、埼玉高速鉄道隧道を利用して浦和美園まで導く工事が平成15年完成。左岸にある小さな建物は導水した浄化水の放流場所で、水質向上に大きく寄与している。



## 「見沼くらしっく館・冬景色」

見沼の加田屋新田を開拓した坂東家の旧住宅。晩秋まで賑やかに彩りを添えていた柿の実もすっかり姿を消して、旧家の庭は深い眠りに入っている。

## 「旧坂東家の大かまど」

坂東家住宅見沼くらしっく館では年末恒例の餅つき会が行われる。

一晩水に漬けておいたもち米を、蒸籠（せいろ）に一段毎2升入れて大釜の蒸気で蒸してから白で搗く。竈（かまど）の火力を一定に保つため、薪の入れ方に熟練が必要とのこと。多くの人の手をへて出来上がった搗きたてのお餅を戴いたが、この上なく美味しかった。



# 見沼たんぼの仲間たち No. 15

見沼たんぼでは、いろんな仲間たちが、見沼の自然を愛し、守り、魅力を伝えるなどの活動をしています…。ここでは、そんな団体の活動内容を紹介していきます。

## NPO 法人 地域人ネットワーク

### 見沼たんぼで菜の花を育てナタネ油絞りまで

#### 地域人ネットワークの主な活動

私たちは、見沼たんぼでナタネの栽培と野菜を育てながら「菜の花子ども教室」を定期的で開催するとともに地域の公民館などでシニア対象のパソコン相談や講座を開く、2足のわらじの団体です。

#### ナタネ栽培の四季と作業

活動する見沼たんぼは大和田公園プール前の野田線寄りにあります。

ナタネの栽培は、種まきの9月末に始まります。冬の寒さに耐えた後、3月になると花芽を抱えた茎がすくすくと伸び、下旬には一気に開花します。この成長のスピードと黄色は私たちの力とエネルギーになります。5月には花は莢に成長してたんぼ全面は緑色に戻り、月末には黄金色に変化し、6月には黒粒子がはじける成熟期を迎え刈取です。

私たちは連作障害軽減策としてたんぼに通水して小休止させ、9月には次の作付けのため、幾度も耕運して播種に備えます。このように、ナタネのたんぼは通年管理状態にあり美しさを保ちます。



#### 菜の花子ども教室

ナタネは食用油と肥料となる油粕に、茎や根はたんぼに鋤込まれ、100%活用されます。油絞りを含めてこのナタネの循環と一連の農作業の一端を子どもたち

に体験させる「菜の花子ども教室」を2005年度から開催して来ました。

#### ナタネ収穫作業

私たちはコンバインの代わりに刈払機と子どもたちの足踏みで収穫します。この方法ではどうしても脱粒して収量が低下します。ナタネは昔ながらの唐箕による選別の後、ビニールハウスで天日干し乾燥させ、一部は手持ちの実験用搾油機で絞りますが、大半は搾油工場に委託します。2009年では、約180kgの収量で約60リットルの油を絞りました。ナタネの種子は滋賀県から取寄せたエルシン酸を含まない改良品種の「ななしきぶ」を使っています。



ナタネの収穫作業

#### 見沼たんぼを菜の花で

2005年の春に調査に訪れた滋賀県東近江市愛東地区では水田地帯にナタネ畑が点在し、休耕田が殆ど見当たりませんでした。

見沼たんぼでも、少なくとも公社管理地を始め遊休地をナタネ畑として活用することで環境保全とたんぼの利活用ができます。規模の拡大で収穫の機械化の可能性も出ると期待され、採れた油は給食施設等への供給も考えられます。見沼たんぼが広く菜の花で保全されることを期待しながら活動しています。

団体名 NPO 法人 地域人ネットワーク  
代表理事 岩井 正三 24名  
ホームページ <http://chiikijin-net.visithp.jp>

## 浦和博物館

住所：さいたま市緑区三室 2458 電話：048-874-3960  
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### 1 展示活動

① 企画展「ちょっと昔のくらしの道具展」  
期間：平成22年4月11日(日)まで 9時～16時30分  
内容：今の小学生の父母・祖父母が、子供のころに使った道具の変化を展示。小学校3年生向け。

### 2 教育普及事業

① 昔のあそび  
日時：1月9日(土)～11日(月・祝)と3月26日(金)～28日(日)  
時間：10時～15時(雨天中止)  
内容：竹馬、ペーゴマ、おはじき、竹とんぼなどの遊びに挑戦。費用：無料、時間内いつでも自由参加  
② 日時：1月11日(月・祝) 10時～12時、13時～15時  
内容：作って遊ぼう、ミニだこ作りにトライ!  
費用：1つにつき30円(材料費)・当日申し込み、時間内いつでも自由参加

### 3 三室地区定例探鳥会

日時：1月17日、2月21日、3月21日(毎月第3日曜日)  
9時00分～12時00分(雨天中止)  
集合：9時に浦和博物館 場所：浦和博物館周辺の見沼たんぼ  
主催：日本野鳥の会埼玉県支部  
参加費：高校生以上100円、小・中学生50円(未就学児は無料)

## 浦和くらしの博物館民家園

住所：さいたま市緑区下山口新田 1179-1 電話：048-878-5025  
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

- ① 小正月のまゆ玉  
日時：1月10日(日) 10時～12時 対象：小学生以上(親子可)  
定員：20人(先着順) 費用：無料 申し込み：12/4(金)から電話で
- ② 昔のくらし体験  
日時：1月24日(日) 13時30分～15時30分  
対象：小学生以上(親子可) 定員：30人(先着順)  
費用：無料 申し込み：1/5(火)から電話で
- ③ 探鳥会  
日時：2月7日(日) 9時～12時(雨天中止)  
対象：どなたでも(小学生以下は保護者同伴)  
費用：中学生以下50円、高校生以上100円  
申し込み：当日、直接民家園へ
- ④ 見沼塾「和紙を漉く・つくる」  
日時：2月27日(土)28日(日) 9時30分～12時※2日間  
対象：小学生以上(親子可) 定員：20人(先着順)  
費用：600円 申し込み：2/4(木)から電話で
- ⑤ 竹馬づくり  
日時：3月22日(月) 9時30分～12時  
対象：小学生以上の親子 定員：10組 費用：500円  
申し込み：3/8(木)から電話で

## 旧坂東家住宅見沼くらしっく館

住所：さいたま市見沼区片柳 1266-2 電話：048-688-3330  
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### 1 主催事業

#### ① 趣味・教養講座(定員あり/無料)

イベント	月日	時間	定員
将棋駒の根付け	1月21日(木)	14時～16時	8名
将棋駒のカラピナ	1月22日(金)	14時～16時	8名
将棋駒で何かを作ろう!	1月23日(土)	14時～16時	8名
将棋駒のキーホルダー	1月28日(木)	14時～16時	8名
将棋駒のストラップ	1月29日(金)	14時～16時	8名
オープン粘土でアクセサリー	2月16日(火)	14時～16時	8名
オープン粘土でストラップ	2月17日(水)	14時～16時	8名
はじめての川柳	2月19日(金)	14時～16時	8名
オープン粘土でペーパーウエイト	2月23日(火)	14時～16時	8名
オープン粘土で土鈴	2月24日(水)	14時～16時	8名
オープン粘土で煎茶碗	3月9日(火)	14時～16時	8名
田舎そば作り教室	3月10日(水)	10時～12時	8名
オープン粘土で小皿	3月10日(水)	14時～16時	8名
オープン粘土でぐい呑み	3月16日(火)	14時～16時	8名

信州そば作り教室	3月17日(水)	10時～12時	8名
オープン粘土でそば猪	3月17日(水)	14時～16時	8名
赤本を読む「兎手柄」	3月18日(木)	14時～16時	8名
韓紙に親しむ「角皿」	3月19日(金)	14時～16時	8名
竹細工教室「凧作り」	3月20日(土)	10時～12時	8名
ざるうどん作り教室	3月24日(水)	10時～12時	8名
韓紙に親しむ「六角皿」	3月25日(木)	14時～16時	8名
韓紙に親しむ「ペン皿」	3月26日(金)	14時～16時	8名
田舎うどん作り	3月31日(水)	10時～12時	8名

#### ③ 公開講座(定員なし/無料)

くらしっく歌始め-童謡合唱-	1月8日(金)	14時～16時
加田屋流投扇会	1月16日(土)	10時～12時
梅花ほころぶ-童謡合唱-	2月13日(土)	14時～16時
華(はなさ)く-童謡合唱-	3月12日(金)	14時～16時

#### ④ 年中行事の公開(定員なし/無料)

加田屋の七草粥	1月7日(木)	10時～12時
小正月の作花	1月15日(金)	10時～12時
節分の豆まきとヤッカガシ	2月3日(水)	14時～15時
初午のしみづかり	2月6日(土)	14時～15時

### 2 企画展示

「虎の縁起・寅の除魔」	1月5日(水)～1月31日(日)
「型絵染」	2月2日(火)～2月28日(日)
「ぐい呑みと猪口」	3月2日(火)～3月28日(日)

※申込み等の詳細については見沼くらしっく館にお問い合わせ下さい。

## 農業者トレーニングセンター(園芸植物園・大崎公園・子供動物園)

住所：さいたま市緑区大崎 3156-1 電話：048-878-2026  
開館時間：10時～16時 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

- ① 第9回さいたま市洋らん展  
日時：2月5日(金)～7日(日) 10時～16時  
会場：園芸植物園展示温室  
内容：洋らんの展示即売、市民が栽培した洋らんの展示  
園芸講座・園芸相談など
- ② 第9回さいたま市椿展  
日時：3月27日(土)～28日(日) 10時～16時  
会場：園芸植物園 花き展示温室  
内容：椿の切り花、ディスプレイの展示、椿に関する園芸相談  
椿の苗木有料頒布
- ③ 子供動物園「お正月クイズラリー」  
日時：1月5日(火)～6日(水) 11時～15時  
会場：子供動物園(大崎公園内) 対象：小学生以下の方  
申込み：当日会場内受付にて  
内容：園内にある動物問題を解いてパスワードをみつめます。  
正解者には干支の記念バッチをプレゼントします。 費用：無料

## 大宮公園事務所「大宮第2公園・公園ギャラリー」

住所：さいたま市大宮区寿能町 2-405 電話：048-645-9605  
開館時間：8時30分～17時  
休館日：毎月第1・3・5月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### 1 展示会 ※詳細は、直接事務所にお問い合わせください。

大宮第二公園 梅の花図鑑	1月5日(火)～1月24日(日)
大宮公園写生大会作品展(予定)	1月8日(金)～1月24日(日)
埼玉県都市公園写真コンクール入賞作品展	1月25日(月)～1月31日(日)
子ども造形絵画作品展	2月2日(火)～2月7日(日)
おしば展「散歩道だより」	2月2日(火)～2月18日(木)
さいたま緑のトキ写真コンクール入賞作品展(予定)	2月8日(月)～2月18日(木)
風景写真作品展	3月2日(火)～3月7日(日)
禅画作品展即売会	3月2日(火)～3月14日(日)
創作品(写真・絵画など)展示	3月8日(月)～3月14日(日)
野鳥写真展	3月16日(火)～3月21日(日)
詩画展「線路沿いの詩」	3月16日(火)～3月21日(日)
彩の花俱樂部押し花作品展	3月22日(月)～3月28日(日)
春の山野草展	3月25日(木)～3月28日(日)

### 2 第26回大宮第二公園梅まつり

期間：2月13日(土)～3月1日(月)  
内容：演奏会…オカリナ・ギター 2月13日(土)  
佐々木洋の自然観察会(冬編) 2月14日(日) 14時～16時  
(定員：30人 申し込み要 対象：小中学生とその保護者)  
工作体験教室…2月20日(土)・2月21日(日)  
茶席・呈茶…2月26日(金)・2月27日(土)(有料)  
骨董市(予定)…2月25日(木)～3月1日(月)

## 見沼たんぼくらのイベント案内

### 『見沼スケッチ会』 第3回 水彩画展

日 時：2月2日(火)～2月7日(日) 10時～17時(但し、2日は12時から、7日は15時まで)

場 所：さいたま市 氷川の杜文化館(氷川神社 参道東側 048-648-1177)

内 容：『見沼スケッチ会』は、本通信「見沼たんぼ水彩スケッチ紀行」の八木氏が主宰する水彩画の同好会です。このたび同会が3回目の作品展を開催しますので、この機会にぜひ、原画をご覧ください。

連絡先：さいたま市浦和区神明 1-28-16

主宰 八木一郎

TEL 048-822-5504

### 第74回見沼塾 「和紙を漉く・つくる」

日 時：2月27日(土)、28日(日)  
9:30～12:00※2日間

会 場：浦和くらしの博物館民家園

内 容：和紙を自分で漉いて作ります。

参加費：600円

申込み：20名(先着順) 2月4日(木) から電話で民家園へ(048-878-5025) へ

その他：浦和くらしの博物館民家園との共同実施です。

問合せ：TEL(048)878-5025 (民家園)

### 見沼の自然ふれあいウォーク

日 時：2月7日(日) 13時～16時

集合解散：合併記念見沼公園管理棟

内 容：自然観察指導員のガイドで、水辺の野鳥や春をぶ野の花を見て歩く。約5km。

申し込み：当日、集合地で12時30分から受付

参加費：¥500(中学生以下は無料)

問合せ：NPO法人自然観察さいたまフレンド

交通：大宮駅東口からバス④自治医大行き終点すぐ南側(12時発または12時30分発)

問合せ：NPO法人自然観察さいたまフレンド

TEL(048)683-1764・小野

### 第40回自然観察ハイキング 『見沼の自然と史跡を訪ねて』

日 時：3月27日(土) 9時～12時30分

集 合 地：JR 武蔵野線東浦和駅前広場

内 容：自然観察指導員のガイドで、見沼たんぼ南部の史跡を巡りながら、早春のカラフルな野の花を観察します。約6km。

コ ー ス：東浦和駅⇒見沼通船堀⇒見沼代用水東縁⇒木曾呂の富士塚⇒金崎斜面林ふるさとの森⇒川口自然公園⇒東沼神社⇒浦和くらしの民家園(バス停念仏橋の前)

申込み：当日、東浦和駅前広場で8時30分から受付

参加費：¥500(会員及び中学生以下は無料)

問合せ：(048)683-1764(小野)

「見沼たんぼくらぶ」をお友達に紹介してください！「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしましょう！年会費：個人(ファミリー)・団体・法人とも一口¥1,000です。

(編集・発行) 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053

さいたま市見沼区大和田町 1-2124-3 小野方

TEL・FAX：(048) 683-1764

URL：http://minumatanbo.web.fc2.com/